

農村地域における経済と観光

—— ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の場合 ——

● 山 田 徹 雄

【はじめに】

ドイツ連邦共和国において、宿泊観光客規模が最大である州はバイエルンである。ⁱ

バイエルン州には、都市観光の拠点としてのミュンヘン市ⁱⁱ およびニュルンベルク市ⁱⁱⁱ があり、一方、農村観光地域の代表としてオーバーバイエルン県（ミュンヘンを除く）がある。

本稿においては、オーバーバイエルン県南部に位置し、バイエルン州において最も観光客密度の高いガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の経済と観光を分析する。その際、同郡が旧来型の農村観光空間^{iv} に留まらず、医療観光をも含めた「健康地域」(Gesundheitsregion) を展望していることにも言及する。

1. ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の地理

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡を紹介する小冊子 (Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Informationsbroschüre*) の副題が「4つの渓谷の多様性」(Vielfalt in vier Talschaft) と銘打っているように、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の地形はオーベレス・イザール渓谷 (Oberes Isartal)、ロイザッハ渓谷 (Loisachtal)、アンマー渓谷 (Ammertal)、シュタッフエル湖地域 (Staffelseegebiet) から成り立っている。

尾根伝いにティロル州 (オーストリア) へと連なるカルヴェンデル連山の麓の南部には、オーベレス・イザール渓谷がある。そこにある最も大きな自治体がマルクト・ミッテンヴァルトであり、その近隣のイザール川の上流にクリューン、ヴァルガウがある。ロイザッハ渓谷には、ツークシュピッツェの麓にグラйнаウがあり、その他に、ファルヒャント、オーバーアウ、エッシェンローエとマルクト・ガルミッシュ＝パルテンキルヘンがある。アンマー渓谷の南部には有名な修道院のあるエッタールが、北部にはバート・バイヤーソイエンがあり、その中間に位置するのがバート・コールグループ、ザウルグループ、ウンターアマーガウ、オーバーアマーガウである。ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡北部のシュタッフエル湖地域には、オールシュタット、シュヴァイゲン、リークゼー、シュパーツェンハウゼン、ゼーハウゼンとマルクト・ムールナウがある。^v

2. ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡開発計画

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡は、ミュンヘン応用科学大学観光学部 (Hochschule für Angewandte Wissenschaften München, Fakultät für Tourismus)、トーマス・バウシュ教授 (Prof. Dr. Thomas Bausch) に依頼し、『群開発コンセプト』(Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Landkreisentwicklungskonzept*, in interrete sub: <http://www.lra-gap.de/fileadmin/lkr/files/wirtschaft/lkrentwicklung/landkreisentwicklungskonzept.pdf>, 19.11.2012) (以下、『コンセプト1』と略記) をまとめた。これと内容は一致するが、郡長の序言を省き、かつ参考資料リストが

加えられた報告書が『ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡開発コンセプト』（Alpenforschungsinstitut et Regional Management Bayern, *Entwicklungskonzept für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen*, 2009）（以下、『コンセプト2』と略記）である。

『コンセプト2』の編者には、新たに「ガルミッシュ＝パルテンキルヘン・アルペン研究所」が加わった。このことは、後に述べるように、「ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡開発有限会社」のコンセプト策定と関連がある。

さらに、これら2つの調査報告・提案書を踏まえ、健康経済学（Gesundheitsökonomie）の専門家であるギュンター・ノイバウアー教授（Prof. Dr. Günter Neubauer）のもとで最終的なコンセプト・プランとしてまとめられたものが、『健康地域ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡のための開発コンセプト』（Institut für Gesundheitsökonomik/Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen, *Entwicklungskonzept für die Gesundheitsregion Landkreis Garmisch-Partenkirchen: Abschlussbericht für die Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen*, 2012）（以下、『コンセプト3』と略記）である。^{vi}

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡郡長ハラルト・キューン（Landrat Harald Kühn）は、『コンセプト1』の序言において、同郡の現状について、以下の指摘をした。

（1）ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡は恵まれた自然環境と北部への交通接続が良好であったために、第二次大戦後、飛躍的に発展した。特に観光、建設、手工業、商業が、地域の発展に寄与していた。

（2）80年代半ば以降、他のアルペン地方の（観光）市場への参入および国際競争によって、当地の観光業に陰りがみえ、これが建設、手工業、商業にも影響を与えた。

（3）ドイツ再統一後、一時的なブームは発生したが、夏期・冬期の休暇が「短期休暇・近隣保養観光」（Kurzurloabs- und Naherholungstourismus）へと変化した。

（4）近年では、当地において健康分野（Gesundheitsbereich）が発展してきたが、未だ過小評価されている。「健康地域ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡」計画によって、成長を図りたい。

（5）大都市ミュンヘンにより近く観光志向が希薄なマルクト・ガルミッシュ＝パルテンキルヘンより北部の地域は、成長のトレンドを描き切れていない。一方、郡の南部は停滞と後退（Stagnation und Rückgang）に陥っている。^{vii}

『コンセプト1』の本文においては、同郡が10年以上停滞し、一人当たりの生産高（die pro Kopf Wirtschaftsleistung）がドイツ平均を下回り、スロヴェニア、キプロス、ザクセンと同じレベルであることが指摘された。しかしながら、自然、景観、環境は観光・レジャー経済のための資本ストック（Kapitalstock für die Tourismus- und Freizeitwirtschaft）のみならず、地域住民の生活の質（Lebensqualität der einheimischen Bevölkerung）のための資本ストックをも形成していること、^{viii} 郡の最も重要な経済セクターは、ムールナウおよび（マルクト）ガルミッシュ＝パルテンキルヘンに存在するクリニックおよびさまざまな医師集団によって特徴づけられていること、^{ix} 従って、観光においては、年間を通じてのアルペンにおける自然体験と健康に関する専門的スキルを「オーバーバイエル的なもてなし」（oberbayerische Gastlichkeit）と結びつける提言がなされた。^x

さらに、郡は直接、商売に手を染めることができないことを理由に、行政から独立した郡開発会社を設立すること（von der Verwaltung unabhängige Kreisentwicklungsgesellschaft zu etablieren）を求め、郡、ゲマインデ、商工会議所、病院などがその持分所有者になることを提案した。^{xi}

『コンセプト3』は、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡が観光分野において有するメリットとして、外国人で当地に滞在して治療を受けている患者が多数存在することを挙げている。

2007年度において、当地に滞在して治療中の外国人が739名に上り、これはバイエルンにおいてはミュンヘン市に次ぐ水準である。人口1,000人当たりの外国人患者数は、バイエルン全体では1.2、ミュンヘン市では4.3であるのに対して、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡では8.5となっていた。^{xii}

確かに、この数値はガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡が医療観光の分野を重視する根拠となる。

3. ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡開発有限会社 (Kreientwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen mbH) (略称、KFG)

KEG 設立は、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の開発研究の結果であり、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン・アルペン研究所 (Das Alpenforschungsinstitut Garmisch-Partenkirchen) がそのコンセプトを策定した。ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡は、さまざまな長所と可能性を有する国境を越えて有名な地域であるが、さまざまな問題と構造的欠陥があるという認識がその出発点にあった。すなわち、90年代初めには、600万件以上の年間宿泊があったが、2009年度には400万件をようやく超える水準に低下したという事実である。^{xiii}

同社は、資本金10万ユーロをもって、有限会社として2010年6月17日に設立され (商業登記簿への登記は、同年10月14日)、監査役会議長には、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡郡長ハラルト・キューンが就任した。執行役員はダニエル・グロモントカ (Daniel Gromotka)、ギュンター・ホプフェンスペルガー (Günter Hopfensperger) が就いた。^{xiv}

持分所有者の議決権は、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡が最大の88票を占め、郡下のマルクトとゲマインデが66票を持ち、非公共団体が残りの46票を持つことから、郡の主導性を確認できる。(〔表1〕参照) 持分を所有するマルクトおよびゲマインデの内訳を〔表2〕に示した。ここでは、マルクト・ガルミッシュ＝パルテンキルヘンが20票を占め、以下、ムールナウの9票、ミッテンヴァルトの6票とは大きな格差が存在する。非公共団体には、地元の金融機関、商工会議所、手工業会議所、病院、社会活動団体が名を連ねる。

社団法人「生きる喜び」(Lebenslust e.V. Garmisch-Partenkirchen) は、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡に存在するカトリックの社会事業団体である。^{xv}

金融機関では、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡貯蓄銀行 (Kreissparkasse Garmisch-Partenkirchen)、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン信用組合 (Volks- und Raiffeisenbank Garmisch-Partenkirchen) が名を連ねる。

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン総合病院 (Klinikum Garmisch-Partenkirchen) は、ミュンヘン大学医学部の附属病院 (Akademisches Lehrkrankenhaus der Ludwig-Maximilians-Universität) であり、およそ1,100名の雇用を有している。同病院はムールナウに内科専門の分院を持つ。^{xvi} 監査役会議長はガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡郡長ハラルト・キューンが努めている。^{xvii} 患者の67%が地元の郡内から、20%が同郡を除いたオーバーバイエルン県から、また13%がその他の国内および国外から来ている。^{xviii} 同病院のホームページはドイツ語以外に英語、およびロシア語のサイトがあり、外国人に対する配慮が見られる。

〔表1〕 ガルミッシュ＝バルテンキルヘン郡開発有限会社の持分所有者

持分所有者	社員総会における議決権
マルクトおよびゲマインデ	66
郡	88
非公共団体	46
合計	200

(典拠) Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen mbH, Gesellschafter, in interrete sub :
<http://www.kreisentwicklungsgesellschaft.de/de/gesellschafter.html>, 30.10.2012

〔表2〕 持分所有者マルクトおよびゲマインデの内訳

マルクトおよびゲマインデ	社員総会における議決権
Bad Bayersoien	1
Bad Kohlgrub	2
Eschenlohe	1
Ettal	1
Farchant	3
Garmisch-Partenkirchen	20
Grainau	3
Großweil	1
Krün	1
Mittenwald	6
Murnau am Staffelsee	9
Oberammergau	4
Oberau	2
Ohlstadt	2
Riegsee	1
Saulgrub	1
Schwaigen	1
Seehausen am Staffelsee	2
Spatzenhausen	1
Uffing am Staffelsee	2
Unterammergau	1
Wallgau	1

(典拠) Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen mbH, Gesellschafter, in interrete sub :
<http://www.kreisentwicklungsgesellschaft.de/de/gesellschafter.html>, 30.10.2012

[表3] 持分所有者非公共団体の内訳

非公共団体	社員総会における議決権
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン信用組合 (Volks- und Raiffeisenbank Garmisch-Partenkirchen)	8
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡貯蓄銀行 (Kreissparkasse Garmisch-Partenkirchen)	14
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン総合病院 (Klinikum Garmisch-Partenkirchen)	4
(社)生きるよろこび (Lebenslust e.V.)	4
ミュンヘン・オーバーバイエルン商工会議所 (Industrie- und Handelskammer für München und Oberbayern)	8
ミュンヘン・オーバーバイエルン手工業会議所 (Handwerkerskammer für München und Oberbayern)	8

(典拠) Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen mbH, Gesellschafter, in interrete sub :
<http://www.kreisentwicklungsgesellschaft.de/de/gesellschafter.html>, 30. 10. 2012

4. ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の郡庁

郡庁の機能には、州の行政機関として市町村を監督する役割と自治体としての役割がある。^{xxx}

自治体業務はさらに、郡固有業務と州から郡へ委託された業務に分けられ、それぞれの具体的内容は、[図1] によって確認できる。とりわけ、上級学校および病院業務が郡の固有業務とされ、郡議会、郡参事会、および各種委員会あるいは郡長に決定機能があることに注目しよう。

[図1] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の郡庁機能

郡庁 (Landesamt) 長官 (Leiter) 郡長ハラルト・キューン (Landrat Harald Kühn)		
郡自治体業務 (Verwaltung der kommunalen Gebietskörperschaft Landkreis)	州下級官庁業務 (Untere Staatliche Verwaltungsbehörde)	
郡固有業務 (Eigene Aufgabe des Landkreises)	州から郡へ委託された業務 (Vom Staat auf den Landkreis übertragene Aufgabe)	州業務 (Staatliche Aufgaben)

具体的業務

上級学校 (weiterführende Schulen)、 即ち職業学校 (Berufsschule)、実科 学校 (Realschule)、職業専門学校 (Be- rufsfachschule)、経済学校 (Wirtschaftsschule)、ギムナジウム、 障害者のための学校 (Schule für Be- hinderte)、および病院、生活扶助、 青少年扶助、廃棄物処理、郡道など	救急活動、食肉検査、住宅補 助、生活保護など	建築基準監督、自動車免許・ 自動車登録事業、自然・環 境・記念物保護の一部、猟区 管理、漁業、武器の売買・所 有の許可 (Waffenrecht)、郡 に属するゲマインデの監督、 営業基準監督、消費者保護な ど
--	---------------------------	--

決定機能

郡議会、郡参事会、および各種委員会あるいは郡長 (Kreistag, Kreisausschuss und weitere Ausschüsse oder Landrat)	州の指示の執行、バイエルン州に対して広範に指図に従う (Vollzug staatlicher Vorschriften; weitgehend Weisungsgebundenheit gegenüber dem Freistaat Bayern)	州の指示の執行、バイエルン州に対して完全に指図に従う (Vollzug staatlicher Vorschriften; völlige Weisungsgebundenheit gegenüber dem Freistaat Bayern)
--	---	--

(典拠) Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Informationsbroschüre* : Vielfalt in vier Talschaft, 2008, p. 24

5. ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の人口動態

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の人口は、19世紀以降単調な増加を経験してきた。西暦2000年以後、この傾向に変化が生じ、停滞して現在に至っている。([表4] 参照)

[表5] で年齢構成をみると、65歳以上が、人口の1/4以上を占め、地域における高齢化の進行をみることができる。1960年以降、出生数の減少と死亡数の増加が顕著となった。人口の社会増減に目を転じると、2000年以降転出入ともにそれ以前より減少してきた。([表6] 参照)

バイエルン州全体では転入が転出を上回り、人口の社会増をもたらしている。またオーバーバイエルン県においても同様の傾向がみられるが、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡にあっては、人口の社会増は極めて小さい。([表7] 参照)

ここでガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡における転出入先を [表8] で確認しよう。人口の空間的移動は、バイエルン州内、とくにオーバーバイエルン県内で行われている。バイエルンとの間では、転出入数はほぼ拮抗しているが、対ドイツ国内 (バイエルンを除く) では転入が転出を上回り、対国外においても同様の傾向がみられる。

ところで、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡における外国人の動きをみると、転入が転出を上回り、とくに外国からの転入が多い。([表9] 参照)

このことから、同郡では、外国からの転入が転出を上回ることによって、郡の人口が均衡を保っているといえる。特に、外国人で治療目的のため当地を訪れる者がかなり存在することは、すでに指摘した。

[表4] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の人口推移

年度	人口
1840	14,994
1871	15,989
1900	20,518
1925	31,953
1939	50,689
1950	71,503
1961	70,522
1970	75,424
1987	78,782

2001	87,408
2005	87,351
2010	86,336

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p. 6

[表5] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の年齢構成 (2010年12月31日)

年齢層	人口全体に占める比率 (%)
6歳未満	4.3
6歳以上14歳以下	7.8
15歳以上17歳以下	3.0
18歳以上24歳以下	7.0
25歳以上29歳以下	4.9
30歳以上39歳以下	11.0
40歳以上49歳以下	16.7
50歳以上64歳以下	18.8
65歳以上	26.4

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p. 6より作成

[表6] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の人口動態要因

年度	自然増減		転出入による増減		増減
	出生	死亡	転入	転出	
1960	1,093	740	10,761	10,233	891
1970	895	878	11,445	10,348	1,114
1980	727	983	8,898	8,084	553
1990	911	1,057	10,441	8,446	1,849
2000	848	1,061	6,913	6,340	360
2006	725	999	5,981	6,139	-432
2007	682	956	6,230	6,006	-60
2008	597	1,026	6,116	6,082	-395
2009	683	978	6,227	6,100	-168
2010	658	1,020	6,397	6,014	21

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p. 7

[表 7] 地域別転出入 (2010年度)

地域	転入数	転出数	転入－転出
バイエルン州	739,802	694,187	45,615
オーバーバイエルン県	302,214	268,503	33,711
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡	6,397	6,014	383

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistische Berichte: Wanderungen in Bayern 2010*, 2011, p.2 et 6 より作成

[表 8] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡における転入元・転出先 (2010年度)

バイエルン		州境を超えたドイツ国内		国外	
転入	転出	転入	転出	転入	転出
3,999	4,021	1,204	1,076	1,194	917

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistische Berichte: Wanderungen in Bayern 2010*, 2011, p.7

[表 9] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡における外国人の転入元・転出先 (2010年度)

地域	転入数	転出数	転入－転出
	1,516	1,191	325
バイエルン州内移動	436	466	－ 30
州境を超えたドイツ国内移動	91	88	3
国外移動	989	637	343

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistische Berichte: Wanderungen in Bayern 2010*, 2011, p.7

6. ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の経済力

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の経済力を相対的に確認するために、地域 GDP の規模を比較しよう。(〔表10〕参照)

バイエルン州の地域 GDP は、ドイツ全体の17.7%に達している。またオーバーバイエルン県は、バイエルン州 GDP の41.5%を占めている。このことから、ドイツにとってのバイエルン、バイエルンにとってのオーバーバイエルンの存在は大であるといえる。

これに対して、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の地域 GDP はオーバーバイエルンの0.5%にすぎない。

そればかりではない。一人当たりの GDP においては、オーバーバイエルンがドイツ連邦共和国、さらにはバイエルンの水準をはるかに凌駕しているのに対して、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の低位はきわだっている。(〔表11〕参照)

[表10] 地域 GDP (2009年) の比較

	地域の GDP (100万ユーロ)	ドイツにおける比率 (%)	バイエルンにおける 比率 (%)
ドイツ連邦共和国	2,397,100	100	
バイエルン	423,840	17.7	100
オーバーバイエルン	175,885	7.3	41.5
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡	2,089		0.5

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Bruttoinlandsprodukt und Bruttowertschöpfung in Bayern 1980, 1990 bis 2009*, 2011, p. 14, 22, 72

[表11] 一人当たり GDP (2009年) の比較

	一人当たり GDP (単位ユーロ)
ドイツ連邦共和国	29,178
バイエルン	33,897
オーバーバイエルン	40,603
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡	24,204

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Bruttoinlandsprodukt und Bruttowertschöpfung in Bayern 1980, 1990 bis 2009*, 2011, p. 15, 23, 72

「バイエルンの力強い成長は専ら、ミュンヘン大都市圏とニュルンベルク工業地域のおかげであると考えられるであろう。しかし、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡を他の郡部と比較すると、他の郡部の発展は全体の趨勢に従っていることを明確に見ることができる。」^xと『コンセプト1』は指摘した。

この指摘を定量的に検証しよう。

[表12] は、1980年を基準に地域 GDP の成長を示した。バイエルンとオーバーバイエルンは30年弱の間に2.7倍以上の GDP の成長を示したのに対して、ドイツ連邦共和国のそれは2.28倍にすぎなかった。ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡はそれをも下回り、2倍強でしかない。

ここで基準とした年次(1980年)の一人当たり GDP の大きさを[表13-1]で確認すると、オーバーバイエルン、ドイツ連邦共和国、バイエルン、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の順となっている。[表13-2]において、この間の格差の変化をみると、ドイツ全体の水準に対して、オーバーバイエルンはますます優位性を広げ、一方、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡は劣位性を増した。

[表12] 一人当たり GDP の推移 (1980=100)

	ドイツ連邦共和国	バイエルン	オーバーバイエルン	ガルミッシュ＝パル テンキルヘン郡
1980	100	100	100	100
1990	161	168	169	147

2000	196	235	250	199
2005	212	255	268	191
2006	220	265	276	195
2007	231	277	288	202
2008	236	279	284	204
2009	228	270	277	207

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Bruttoinlandsprodukt und Bruttowertschöpfung in Bayern 1980, 1990 bis 2009*, 2011, p. 15, 23, 72より算出

[表13-1] 一人当たり GDP (1980年)

	ユーロ
ドイツ連邦共和国	12,814
バイエルン	12,550
オーバーバイエルン	14,679
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡	11,686

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Bruttoinlandsprodukt und Bruttowertschöpfung in Bayern 1980, 1990 bis 2009*, 2011, p. 15, 23, 72

[表13-2] 一人当たり GDP ドイツ連邦共和国=100

	1980年	2009年
ドイツ連邦共和国	100	100
バイエルン	97.93	116.17
オーバーバイエルン	114.55	139.15
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡	91.19	82.95

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Bruttoinlandsprodukt und Bruttowertschöpfung in Bayern 1980, 1990 bis 2009*, 2011, p. 15, 23, 72より算出。

このようにガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の一人当たり GDP が低位にあるにもかかわらず、同郡の地価は高い水準にある。[表14] は2006年における建設用地の実勢価格を示したものである。バイエルン内では、大都市ミュンヘンを含むオーバーバイエルンの地価が高水準にあることは想定できるが、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の地価はそれを上回っている。

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡において不動産価格が高いのは、転入者による住宅需要ばかりでなく、別荘 (Zweitwohnung) 購入者による需要によって説明できる、と『コンセプト1』は指摘する。^{xxi} 例えば、同群の郡庁所在地マルクト・ガルミッシュ＝パルテンキルヘンにおいては、2011年に、主たる居住地 (Hauptwohnsitz) とするものは、26,287人であるが、このほかに従たる居住地 (Nebenwohnsitz) とするものが、1,353人であった。^{xxii}

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の地価を吊り上げているのは、地域住民ではない、と断言できるであろう。

[表14] 建設用地における地価比較（2006年）

	ユーロ/㎡
バイエルン	152.85
オーバーバイエルン	281.10
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡	296.49

Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Landkreisentwicklungskonzept* p.7 et Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Kaufwerte für Bauland in Bayern seit 1990 nach Baulandarten*

なお、[表15]は、同郡の土地利用形態を示したものであるが、森林、農業用地が74%を占め、建設用地・空き地はわずか2.6%しかない。このことも、建設用地の地価が高位にある理由のひとつであるかもしれない。

[表15] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の土地利用形態

	面積 (ha)
建物用地・空き地 (Gebäude-u. Freifläche)	2,621
企業用地 (Betriebsfläche)	172
保養地 (Erholungsfläche)	95
交通用地 (Verkehrsfläche)	1,713
農業用地 (Landwirtschaftsfläche)	25,310
森林 (Waldfläche)	49,842
河川・湖 (Wasserfläche)	2,559
その他 (Fläche anderer Nutzung)	18,756
合計 (Gebietsfläche insgesamt)	101,224

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen* 09 180, p.12

7. ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の観光

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡には、2011年6月時点で、590軒の宿泊施設（ベッド数9床以上）があり、収容できるベッド数は合計19,861床である。2006年以降の宿泊施設の動向を[表16]でみると、施設数も床数も逡減してきた。これらの施設には年間70万人以上の宿泊者があり、国外からの宿泊者はおよそ20%を占めている。なお、[表17]～[表20]において、2010年度に異常値を示しているが、これはオーバーアマーガウにおいて、10年ごとに開催される「キリスト受難劇」の影響である。^{xxiii}

宿泊件数を基準にすると、国内からの宿泊者による件数の比率が85%前後まで上がる。([表18]参照)このことは、ドイツ国内からの宿泊者の方が、より長期に滞在していることを表している。

([表19] 参照)

小規模施設における宿泊者は、平均宿泊数が7を超え、大規模施設と比較して2倍以上の日数の長期滞在となる。

[表16] ガルミッシュ＝バルテンキルヘン郡宿泊施設の推移（ベッド数9床以上）

年度	当該年度6月における宿泊施設数	当該年度6月における宿泊用床数
2006	658	20,942
2007	654	20,660
2008	634	20,494
2009	633	20,515
2010	601	20,002
2011	590	19,861

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p.15

[表17] ガルミッシュ＝バルテンキルヘン郡宿泊者数の推移（ベッド数9床以上）

年度	宿泊者数	ドイツ国内からの宿泊者 比率 (%)	国外からの宿泊者比率 (%)
2006	667,659	79.18	20.82
2007	706,859	79.57	20.43
2008	723,361	80.56	19.44
2009	714,055	81.21	18.79
2010	832,519	72.49	27.51
2011	744,235	80.23	19.77

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p.15より作成

[表18] ガルミッシュ＝バルテンキルヘン郡宿泊件数の推移（ベッド数9床以上）

年度	宿泊件数	ドイツ国内からの宿泊者 により宿泊件数比率 (%)	国外からの宿泊者による 宿泊件数比率 (%)
2006	2,712,317	85.00	15.00
2007	2,860,524	84.91	15.09
2008	2,941,097	84.50	15.50
2009	2,810,700	85.31	14.69
2010	2,802,411	79.95	20.05
2011	2,734,172	84.10	15.90

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p.15より作成

[表19] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡宿泊者の平均宿泊数（ベッド数9床以上）

年度	平均宿泊数	ドイツ国内からの宿泊者の平均宿泊数	国外からの宿泊者の平均宿泊数
2006	4.1	4.4	2.9
2007	4.0	4.3	3.0
2008	4.1	4.3	3.2
2009	3.9	4.1	3.1
2010	3.4	3.7	2.5
2011	3.7	3.9	3.0

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p. 15

[表20] ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡宿泊者数の推移（ベッド数9床未満）

年度	宿泊者数	宿泊件数	平均宿泊数
2006	166,925	1,290,147	7.7
2007	165,610	1,230,543	7.4
2008	170,564	1,222,646	7.2
2009	168,946	1,208,733	7.2
2010	174,579	1,211,453	6.9
2011	148,837	1,137,598	7.6

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p. 15

ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の宿泊件数は、バイエルンにおいてミュンヘン市に次いで多数を占め、これを地域人口一人当たりで見ると、バイエルン内で最大の値を示し、これに次ぐのがベルヒテスガーデナー・ラント郡 (Landkreis Berchtesgardener Land) であると『コンセプト3』において指摘されている。^{xxiv}

ここでは、地域人口一人当たりの年間宿泊者数を「宿泊密度」と呼ぼう。ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡の宿泊密度は31.67であり、バイエルンの6.46、オーバーバイエルンの7.52と比較すると異常に高い値を示す。参考までにベルヒテスガーデナー・ラント郡では、それが25.36である。([表21] 参照)

バイエルンにおける都市観光の拠点であるミュンヘン、ニュルンベルクはそれぞれ、8.67、4.98となっている。([表22] 参照)

[表21] 地域における宿泊密度

	人口 (2010年12月31日)	年間宿泊件数 (2011年度)	年間宿泊件数/ 地域人口
バイエルン州	12,538,696	80,956,617	6.46

オーバーバイエルン県	4,382,325	32,971,502	7.52
ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡	86,336	2,734,172	31.67
ベルヒテスガーデナー・ラント郡	102,389	2,596,084	25.36

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten Bayern 09*, p.6 et 15; Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Regierungsbezirk Oberbayern 09 01*, p.6 et 15; Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Garmisch-Partenkirchen 09 180*, p.6 et 15; Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für den Landkreis Berchtesgardener Land 09 172*, p.6 et 15より算出

[表22] 都市における宿泊密度

	人口 (2010年12月31日)	年間宿泊件数 (2011年度)	年間宿泊件数/ 地域人口
ミュンヘン市	1,353,186	11,738,112	8.67
ニュルンベルク市	505,664	2,518,490	4.98

(典拠) Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Kreisfreie Stadt München 09 162*, p.6 et 15; Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik communal 2011: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Kreisfreie Stadt Nürnberg 09 564*, p.6 et 15

[小括]

第二次大戦以降、バイエルン州は州都ミュンヘンを含んだオーバーバイエルン地方において一人当たり GDP が卓越した成長を遂げた。この点、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡は観光密度が高いにもかかわらず、成長から取り残された地域であった。一人当たり GDP の低位、地価の高さ、旧来型農村観光による成長機会の制約を踏まえ、郡当局は、健康地域としての成長プランを策定した。

-
- i ベッド数9床以上の規模を有する宿泊施設に関して、年間宿泊件数が最大である州はバイエルン（約8千100万件）であり、これに次いでバーデン・ヴュルテンベルク（約4千5百60万件）、ノルトライン・ヴェストファーレン（約4千4百20万件）、ニーダーザクセン（約3千9百40万件）である。(Deutscher Tourismusverband, *Zahlen, Daten, Fakten 2011*, p.14)
 - ii 拙稿「コンツェルン都市ミュンヘンと観光事業」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第10号、2010年、拙稿「ミュンヘンにおける観光事情」跡見学園女子大学『コミュニケーション文化』第4号、2010年、拙稿「都市観光の比較研究」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第11号、2011年参照。
 - iii 拙稿「フランケン地方における観光事情」跡見学園女子大学『文学部紀要』第44号、2010年、拙稿「コンツェルン都市ニュルンベルクと観光インフラストラクチャー」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第12号、2011年参照。
 - iv 例えば、鈴江恵子『ドイツ グリーン・ツーリズム考』東京農業大学出版会、2008年において農村地域における観光が、田園産業としてのグリーン・ツーリズムとして紹介されている。また、井上和衛編『欧

- 州連合 [EU] の農村開発政策」、筑波書房、1999年に収められた山崎光博「ドイツの事例」をも参照。
- v Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Informationsbroschüre* : Vielfalt in vier Talschaft, 2008
- vi トーマス・パウシュ教授 (Prof. Dr. Thomas Bausch) については、Hochschule für Angewandte Wissenschaften München, Fakultät für Tourismus, in interrete sub : http://tr.fh-muenchen.de/die_fakultaet/ansprechpartner/professoren_tourismus/thomas_bausch.de.html, 29.11.2012、ギュンター・ノイパウワー教授 (Prof.Dr. Günter Neubauer) については、IfG München, Univ. –Prof. Dr. Günter Neubauer–Curriculum Vitae–, in interrete sub : http://ifg-muenchen.com/Team_/Univ_-_Prof_Dr_Gunter_Neubauer/univ_-_prof_dr_gunter_neubauer.htm, 27.11.2012を参照。
- vii Landkreis Garmisch-Partenkirchen, Vorwort des Landrates, in : *Landkreisentwicklungskonzept*, p.1–2
- viii Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Landkreisentwicklungskonzept*, p.101
- ix Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Landkreisentwicklungskonzept*, p.102
- x Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Landkreisentwicklungskonzept*, p.104
- xi Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Landkreisentwicklungskonzept*, p.103
- xii Institut für Gesundheitsökonomik/Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen, *Entwicklungskonzept für die Gesundheitsregion Landkreis Garmisch-Partenkirchen : Abschlussbericht für die Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen*, 2012, p.18
- xiii Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen mbH, Kreisentwicklungsgesellschaft-Idee–, in interrete sub : <http://www.kreisentwicklungsgesellschaft.de/de/keg.html>, 30.10.2012
- xiv Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen mbH, Kreisentwicklungsgesellschaft, in interrete sub : <http://www.kreisentwicklungsgesellschaft.de/de/keg.html>, 30.10.2012
- xv Lebenslust e.V. Garmisch-Partenkirchen, Home, in interrete sub : <http://www.lebenslust-gap.de/>, 29.11.2012
- xvi Klinikum Garmisch-Partenkirchen, Home, in interrete sub : <http://www.klinikum-gap.de/home/>, 29.11.2012
- xvii Klinikum Garmisch-Partenkirchen, Aufsichtsrat, in interrete sub : <http://www.klinikum-gap.de/klinikum/aufsichtsrat/>, 29.11.2012
- xviii Klinikum Garmisch-Partenkirchen, Daten und Fakten, in interrete sub : <http://www.klinikum-gap.de/klinikum/daten-fakten/>, 29.11.2012
- xix 財自治体国際化協会『ドイツの地方自治』、2003年、105ページ。同書は、バイエルン州オーバーバイエルン県ランツベルク郡 (Landsberg am Lech) の事例をもとに郡の組織、行政事務について詳細な紹介がなされている。(同書103ページ以降)
- xx Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Landkreisentwicklungskonzept*, p.6
- xxi Landkreis Garmisch-Partenkirchen, *Landkreisentwicklungskonzept* p.6
- xxii 拙稿「ガルミッシュ＝パルテンキルヘンと観光」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第15号、2013年参照。
- xxiii この点については、拙稿「ガルミッシュ＝パルテンキルヘンと観光」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第15号、2013年を参照。
- xxiv Institut für Gesundheitsökonomik/Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen, *Entwicklungskonzept für die Gesundheitsregion Landkreis Garmisch-Partenkirchen : Abschlussbericht für die Kreisentwicklungsgesellschaft Garmisch-Partenkirchen*, 2012, p.18